

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

農学部

部局長名：

木村 吉伸

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>I 入試関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 一般選抜前期日程において志願倍率2.0倍以上を維持する。 実業高校を対象とした学校推薦型選抜・募集方法Aの志願者倍率を2.0倍以上にするために、県内の校長との意見交換を継続する。 外国人留学生の獲得を目指し、日本留学試験及びSDGs面接試験を主とした入試制度を確定する。 「開発目標(SDGs)に貢献する人材養成国際農学プログラム(GAP)の構築」への国費外国人留学生4名の受入を目指す。 <p>II 教育関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 対面授業などでの新型コロナウイルス感染防止・拡大予防策を徹底し、オンライン授業との併用により円滑かつ効果的な教育を行う。 新型コロナ対策を踏まえつつ、「地域活性化システム論」、「農家体験実習」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産学体験講座」、「日本農業論1,2」を開講し、実践型社会連携教育を拡充する。 TA, SA制度, 学生相談制度, アカデミック・アドバイザー・アシスタント(AAA)制度を活用し、学生支援を強化する。 オンライン授業, GDP関連授業の質向上に向け, FA研修会を活用して教員間の教育手法交流, GDPとの連携を推進する。 外部・内部評価による教育の質保証のため, 父兄懇談会, 授業評価アンケート, 卒業生アンケートを実施, 分析し, 行動計画を検討する。 上記の取り組みを通じて, 卒業時学生満足率90%以上, 大学院進学率の昨年度よりの向上, 就職率95%以上, 休学・退学率3%未満を目標とする。 	<p>I 入試関連</p> <ol style="list-style-type: none"> 一般選抜前期日程の志願倍率は2.3倍であり, この2年間で目標を充分達成している。しかしながら, 昨年度実績の2.6倍からは低下しているため, 一層の広報活動が必要であると考えられる。 学校推薦型選抜・募集方法Aの志願者倍率については, 県内農業高校長との意見交換会でも積極的な受験を依頼したが, 県内からは1名の受験生に留まり, 志願倍率も昨年度比では増加したものの1.0倍に留まった。定員6名の維持を考えると, 県外高校への積極的な広報が必要である。 外国人私費留学生の獲得を目指し, 入試実施日を前期日程実施日から学校推薦型選抜の実施日(12月)に変更するとともに, 日本留学試験成績及びSDGs面接試験を主とした入試制度に変更した。 国際農学プログラムを開始し, 4名の国費外国人留学生を受け入れた(マレーシア1名, ネパール1名, ベトナム2名)。2022年度も国費外国人留学生の受け入れを継続する。 <p>II 教育関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 全学の方針に従って, BCS作成に基づいた新型コロナ対策を徹底した対面式授業とオンライン授業との併用により効果的かつ安全性の高い教育を推進した。 新型コロナ対策を十分に講じ, 実践型社会連携教育「地域活性化システム論」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産学体験講座」、「日本農業論1,2」を実施した。 種々の学生の特性に応じてTA, SA制度, 学生相談制度, アカデミック・アドバイザー・アシスタント(AAA)制度を活用し, 学生支援を行った。 教育スキル, 授業の質向上に向け, 2度のピアレビューを含む4回のFA研修会を実施した。 計画どおり, 父兄懇談会, 授業評価アンケート, 卒業生アンケートを実施し分析を進めている。 卒業時学生満足率は91.2%, 大学院進学率は昨年度43.1%であったが今年度は50.8%と向上, 休学率は2%, 退学率は0.6%で目標を達成している。就職率は2月末時点では90.5%であるが引き続き未回答者からの回答を収集する予定である。
②研究領域	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによって遅れていた研究活動を, 感染対策を維持しながら活性化させる。 科研費申請率, 新規採択件数, 獲得金額を増やすため説明会などを実施し, 科研費申請率の目標を100%, 科研費新規採択率の目標を40%, 科研費獲得金額の目標を120,000,000円とする。 共同研究および寄付金獲得のために企業等との連携をより強化し, 共同研究費受入件数の数値目標を26件, 共同研究費受入金額の目標を15,000,000円とする。また受託研究費受入件数の目標を16件とする。 論文数の目標を110本, 国際共著論文数を40本, 国際共著率の目標を36%とし, Q1ジャーナル投稿数を42本を目標値とする。 異なるコースの研究ユニットあるいは異なる学部の研究室との共同研究推進を図る。また, 公的研究機関や企業との交流を促進させることで, 異分野融合研究の推進を図る。ARTセンターと連携し, 生殖補助医療技術を含む生殖科学に関する研究活動を推進する。 SDGsを推進する研究をさらに展開する。 農学系地域産業の活性化に向けた研究プロジェクトや支援研究を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナ禍においてBCSで承認を行った研究活動に対して, 感染対策を維持しながら活性化させた。 科研費申請率, 新規採択件数, 獲得金額を増やすため説明会を実施した。科研費申請率は96%, 科研費新規採択率は30.4%であったが, 科研費獲得金額の114,140,000円(令和3年度直接経費+間接経費)を達成した。 共同研究および寄付金獲得のために企業等との連携をより強化し, 共同研究費受入件数16件, 共同研究費受入金額11,181,845円, 受託研究費受入件数21件を達成した。共同研究および共同研究費受入金額はコロナ禍のため目標値を若干下回ったが, 受託研究費受入件数は目標を大きく上回った。 論文数116本, 国際論文93本, 国際共著論文数39本, 国際共著率33%とし, Q1ジャーナル投稿数49本となり, 目標をほぼ達成, あるいは上回った。 異なるコースの研究ユニットあるいは異なる学部の研究室との共同研究推進を図った。また, 岡山県研究機関や企業との交流を促進させ, 異分野融合研究の推進を図った。ARTセンターと連携し, 生殖補助医療技術を含む生殖科学に関する研究活動を推進した。 真庭市と連携してSDGsを推進する研究連携を展開した。 農学系地域産業の活性化に向けた公開シンポジウム「日本ワインと地域活性化」, 地域活性化システム論二回「学士農業のスズメ農業女子編」および「土地利用型作目を核とした地域農業活性化」を実施した。これらは農学系地域産業の活性化に向けた研究プロジェクトや支援研究を推進するほか, SDGsを推進にも直結した取組であり目標を達成し, 優れた成果をあげている。
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染が再拡大する中, 生鮮食品を供給するFSセンター販売所や各種イベント等での農産物販売を, 感染防止・拡大予防策を十分に講じて, 教職員・学生・一般市民の安全・健康が担保される環境のもとで, 3密を避ける販売形態により, 一般市民・学生・教職員へ, 新鮮で安全・安心な農産物を提供するとともに, SDGsにおける食と農の重要性を社会へ発信する。L-Caféの留学生食糧支援に協力し, FSセンターから野菜等の提供を行う。 「農家体験実習」、「中四国大学連携フィールド演習」等の双方向型の講義・実習科目を感染防止・拡大予防策を十分に講じて, 可能な範囲で実施することにより, 地域活性化に貢献する。 農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を, 感染防止対策を十分に講じて行う。 グッドジョブセンターとの連携を強化し, 引き続き「農業による福祉的雇用の促進」・「福祉的農業の確立」のためのプロジェクトを推進する。 農学部主催の公開講座においては, 新型コロナウイルス感染防止・拡大予防策を十分に検討し, 児童・生徒あるいは一般市民の安全・健康が担保される場合にのみ実施し, 農学のフィールドを実際に体験する機会を提供するとともに, 農学とSDGsの広報に努める。 	<ol style="list-style-type: none"> BCSの策定により感染防止対策を十分に行って, FSセンター販売所や各種イベント等での農産物販売を通じて, 一般市民・学生・教職員へ, 新鮮で安全・安心な農産物を提供するとともに, SDGsにおける食と農の重要性を社会へ発信した。 「農家体験実習」、「中四国大学連携フィールド演習」は宿泊を伴うため, 感染防止・拡大予防の観点から中止とした。コンソーシアム岡山/全学開放科目「農場体験実習」は宿泊を中止し, BCSを策定して通いで感染防止対策に配慮して実施され, 農学の普及啓発に貢献した。 農学部フェアと同時開催の収穫祭における学生支援を, BCSを策定し感染防止対策に配慮して行った。 グッドジョブセンターとの連携を強化し, 農業による福祉的雇用の推進した。 BCSの策定により感染防止対策を十分に行って, 公開講座「育てて食べよう美味しい夏野菜一家庭菜園のツボ2021-」, ジュニア公開講座「岡大ピオーネづくり名人をめざそう」, 農学部公開講座「生命のはじまり『受精卵』をみてみよう」を対面で行った。児童・生徒, 一般市民に農業のフィールドや体外受精を実際体験する機会を提供するとともに, 農学とSDGsの広報に努めた。
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス禍に柔軟に対応できる教育研究活動や学部運営を維持する。 WTT教員のテニュア取得に向けたサポート体制を充実させるとともに, 新たな女性教員採用やポストアップの準備を行うことで, ダイバーシティ推進を加速させる。達成目標値(R5年度)である女性教員数10名の早期達成を目指す。 WTTJr, TTJr 教員の研究活動を支援する。 新型コロナウイルス禍収束を見据えて, 若手教員の海外の教育研究機関への派遣を支援するとともに, GDP教育への貢献度を高める。 法令遵守, ハラスメント防止等を徹底するために, 研修会や勉強会を複数回教員会議の前に開催する。 	<ol style="list-style-type: none"> 学生・職員の協力により, 農学部講義室や研究室での感染を未然に防ぐことができ, 教育研究や学部運営を十分に維持できたと考える。 令和3年度にはWTT教員1名がテニュアを取得し, ポストアップ制度活用により, WTT出身の教員1名が准教授に昇任した。また, WTT教員(1名)受入の人事を進めた。 WTTJr教員の研究活動を支援するために研究室(居室)の貸与を行った。 シャインプログラムを活用することで, 女性教員(教授)を海外の教育研究機関に派遣した。 10月教員会議前にコンプライアンス(公的資金運用 袖山理事)研修会と1月教員会議前にハラスメント防止研修会(保健管理センター 岡部准教授)を開催した。